

令和元年度 事業所向け 放課後等デイサービス評価表（集計）

ウィッシュかがみの

評価職員：児童発達支援管理責任者（1）、保育士（2）、児童指導員（2）

配布期間：令和元年5月7日～令和元年5月31日

集計：令和元年5月31日

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	4	1		ホールを含めて、3部屋を使用。その日の利用者構成により、パーテーションやマットの位置など活動室の環境を変えている。子どもの特性とニーズに合わせて活動場所を提供するようにしている。一人ひとりに合った安心・安全な環境を作ることができるように、日々話し合いをしている。
	2 職員の配置数は適切であるか	3	2		定員10名に対して、児童発達支援管理責任者1名、指導員2名の人員配置基準となっているが、指導員を4名配置し、うち2名は保育士・幼稚園教諭二種免許を有している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		2	3	障害者用トイレが1階にあり、玄関にはスロープがある。知的・発達障害を主な対象児として運営規定に定めている。事業所にはエレベーターがない。小学1年生～高校3年生までが対象となり、洗面所、机、椅子、トイレのサイズが体格に合わない場合がある。トイレの便座や洗面台などで、背が届かない時は、踏み台を置くなど配慮している。
業	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	4	1		毎日の振り返りの時間を30分～40分とり、職員全員が参加している。
	5 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	4	1		保護者向け評価表は、平成27年度より毎年1回実施している。個別支援計画の面談時や帰りのお迎え時、連絡帳にて、保護者の意向の聞き取りを行っている。苦情や相談については、窓口担当者、解決責任者、第三者委員をおいて対応している。

務 改 善	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5			平成28年度より、自己評価及び保護者向け評価表を、ホームページにて公開しており、毎年更新している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2		3	実施していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4	1		法人内部研修（新任研修、ビジネスマナー研修、事業所見学、職員研修、学習会）の他に、高知県社会福祉協議会や療育福祉センター、高知県知的障害者福祉協会、育成会が開催する研修に、臨時職員も含め、広く参加している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	1		発達検査などフォーマルなアセスメントをとる資格を持った職員はいない。発達検査の所見を参考にしたり、日々の支援の振り返りから、支援に必要な情報を集めている（アセスメントしている）。相談支援専門員が作成する障害児支援計画とともに、保護者からの相談、日々の振り返りなどから放課後等デイサービス計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	3	1	1	ケース会等では、フレームワークを活用した自閉症支援（水野）「自閉症特性解説の手引き」を活用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5			朝の話し合いには、全職員が参加して、その日の利用者構成と送迎時間を見て、活動（案）を立てている。最終的には、利用者が活動に参加するかどうかを決める。翌日の振り返りには、全職員が参加して、様子を確認し、次の利用に向けての準備をする。日々の活動や行事では、職員を固定せず、ローテーションをして活動を担当するようにしている。

## 適切な支援の提供

12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	2	3		平常時は、宿題・遊びーおやつー遊びの流れを基本とし、一人ひとりの活動を大切にしている。固定化しないように、好きな事や興味関心のある事を探して準備するように努めている。長期休暇時は、プール（夏期）、公園へのドライブ、調理、買い物など事業所外での活動も行っている。楽しみながら、遊びながら、日常生活動作や社会性、コミュニケーションなどを学んでいる。発達段階はひとり一人異なるので、一人ひとりに合わせた手立てを用意するように努めている。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3	2		11、12同様
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	4	1		11、12同様
15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	5			11、12同様。前回利用時の様子から、手立てを用意したり、自立度に合わせて、手がかりを減している。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日に行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	1	1	延長サービスを提供しており、職員勤務は早番・遅番のローテーション勤務になる。そのため、翌日に職員全員がそろって、前日に利用した全利用者の様子を共有するとともに、次回利用に向けての手立てを話し合い、修正を繰り返している。

17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	5		日々の振り返りでは、支援記録をもとに話し合いをしている。話し合いで出た特記事項や次回利用時に向けての手立ては、支援記録に加筆するようにしている。児童発達支援管理責任者は、毎日記録を確認して、全職員がそろそろ振り返りの時間に、支援の検証・改善につなげる材料としている。支援記録には、自由記載欄とは別に、放課後等デーサービス計画で目標としている事や、モニタリングや評価の根拠となるデータを取ることができるよう、一人ひとりに合わせた項目を作っている。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	5		6ヶ月に1回、放課後等デイサービス計画を作成し、中間の3ヶ月目でモニタリングを行っている。計画終了月には評価を行い、次期計画に反映している。
19	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っているか	2	3	12にある活動を行っている。遊びや事業所外の活動では、一人ひとりの嗜好に合わせて提供している。地域にある公共施設・民間施設にも出かけている。他の社会福祉事業や地域において行われている学習・体験・交流活動には参加していない。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5		児童発達支援管理責任者が参加している。担当者会の時間が、放課後に設定されることが多いため、他職員の参加は難しい。担当者会の内容は、議事録にして、回覧するとともに、毎日行われる振り返りの時間でも情報共有している。
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5		保護者を介して、行事や送迎時間等の情報を得ている。香美市教育の日を活用して、学校での様子を見学し、日々の支援に活かしている。

関係機関や保護者との連携

22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		4	1	医療機器を使用している子どもの受け入れ、特別な医療ケアが常時必要な子どもの受け入れは行っていない。ウィッシュカがみの中では生活介護事業（成人）も行っており、何かあれば、生活介護事業に配置している常勤の看護職員に相談している。服薬管理は、処方箋と保護者の依頼に従っている。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	2	3		利用開始前には、サービス担当者会が開かれるので、そこで情報を得ている。保護者の同意を得て、就学前に利用していた児童発達支援事業所から書面での情報を得ることもあるが、児童発達支援事業所自体が少ないため、どちらとも言えない。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5			保護者と移行先の事業所の要請に応じて対応している。法人内事業所であれば、場合によってはOJTにより、引き継ぎを行うこともある。事業所内では、毎年引き継ぎ書を作成し、人事異動等で担当が変更しても、支援内容が引き継がれるようにしている。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	1	1	療育福祉センターが開催する研修には、講義・トレーニング研修ともに毎年職員が参加している。支援会議等で、療育福祉センター職員がスーパーバイザーとして参加する時は、その時にある所見を、職員間で共有している。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		1	4	・公園や図書館、森林センターなど、外出先で、子どもと交流する機会がある。
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		3	2	(地域自立支援)協議会から要請があれば参加できる体制はある。支援会議やケア会議等には必ず参加している。

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	5			他事業所に比べて、帰りは保護者に送迎をお願いしているので、その際事業所利用の様子を見てもらったり、保護者と学校や家庭での様子について話し合う時間は取りやすい。放課後等デイサービス計画での面談（年4回）の他に、保護者から個別に相談を受ければ対応している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		2	3	療育福祉センターが開催するティーチャーズ・トレーニング研修（ペアレント・トレーニングの職員ver）には、平成28年度には1名、平成29年度には2名の職員が参加。事業所で、保護者向けのペアレント・トレーニングは開催していない。
保護者への説明	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3	2		利用契約の際に説明し、運営規程等は事業所に掲示してある。重要事項説明書は、変更の都度、保護者に説明して同意を得ている。利用に関して不明なことがあれば、その都度児童発達管理責任者もしくは管理者が対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	2	3		28にある様に、保護者と話をする時間を作っている。相談内容については、どの職員が聞いても、児童発達支援管理責任者に届くようにして、できる範囲の助言と支援を行っている。事業所に対応できない課題については、関係機関につなげるようにしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			5	保護者会は開催していない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			重要事項説明書には、苦情対応の窓口と解決責任者を設置し、その他に第三者委員を設置しており、事業所内にその内容を掲示している。

責 任 等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	5		ホームページには、活動内容を掲載している。事業所では、毎月1回「ウィッシュだより」を発行して、活動の様子等を掲載している。その他、法人として機関紙「わだち」を発行しており、利用者や関係機関に送付している。
	35	個人情報に十分注意しているか	3	2	利用契約時には、個人情報使用同意書を取り、個人情報を使用する目的を明記して、そこに従い個人情報を使用している。事業所玄関の靴箱は、写真と名前が明記しており、その他の来所者の目にふれる。
	36	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5		連絡帳と迎え時に、保護者と情報交換をしている。行事等の連絡や、事業所からの依頼事項は、書面にて伝えている。利用希望表により、利用を調整している。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	3	2	年に1回ウィッシュ文化祭を行い、保護者や関係機関、地域住民を招待している。地域のサークルに、事業所内の設備を開放することもある。地域で開催される清掃活動や防災訓練には、職員が参加している。
非 常	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4	1	各種マニュアルは策定しており、各フロアにファイルにして管理し、職員が確認できるようにしている。防災マニュアル、BCP（事業継続計画）、風水害・土砂災害マニュアルでは、訓練の都度見直しをしている。県が定める防災マニュアルチェックシートにある項目は網羅している。感染症マニュアルでは、看護師により講義を毎年1回行っている。防災関連のマニュアルは事業所に掲示しており、保護者も閲覧できる。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	5		高知県社会福祉施設防災対策指針に基づき、年4回の避難訓練を行っている。その他にBCP（事業継続計画）に定める訓練を実施している。地域とも合同での防災学習、訓練を毎年1回行っている。

時 等 の 対 応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	5			法人内、事業所内での研修の他に、県社会福祉協議会や高知県知的障害者福祉協会が開催する研修に、正規職員・臨時職員ともに参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	2	1	行動制限ガイドラインを定め、それに従う。身体拘束を行う事例は、今のところない。
	42	植物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		4	1	利用契約時の聞き取りにおいて、アレルギー等の医療情報を確認している。お弁当とおやつは、家庭から持参してもらっている。調理活動や買い物、外食では、事前の情報を活かしている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4	1		報告書が上がれば、リスクマネジメント会議を開いている。